

2024年10月吉日

報道関係各位

ブックフェスタ・ジャパン 2024 実行委員会
事務局：一般社団法人まちライブラリー

「個人」や地域の本のある場所の力や役割を考える「小さな図書館全国大会」
「マイクロ・ライブラリーサミット」を10月20日（日）に
まちライブラリー@MUFG PARK（東京都西東京市）にて開催いたします

まちライブラリー ブックフェスタ・ジャパン 2024 実行委員会（実行委員長：大阪公立大学研究推進機構特別教授、橋爪紳也）は、現在開催中の日本中が本でつながる「まちライブラリー ブックフェスタ・ジャパン 2024」の関連企画「マイクロ・ライブラリーサミット」を10月20日（日）にまちライブラリー@MUFG PARK（東京都西東京市）にて開催いたします。



まちライブラリー@MUFG PARK

マイクロ・ライブラリーサミット（小さな図書館全国大会）は、日本各地で小さな図書館活動をしている個人や団体が、日ごろの活動について発表しあい、思いや悩みを共有する場として2013年にはじまり今年で12回目となります。

2013年の第1回マイクロ・ライブラリーサミット開催当時、「まちライブラリー」という「マイクロ・ライブラリー」の登録数は40か所でした。いま、まちライブラリーは全国1,170か所以上（2024年9月末）に増えています。まちライブラリーの運営主体は約6割が個人です。個人がはじめた本の活動が、共感を呼び、つながり、ひろがってきました。現在は、企業や行政、大学や公立図書館と連携した活動も徐々に増えており、来館者数が同地域の公共図書館の数を上回るまちライブラリーもあります。

* 大阪市中央区：まちライブラリー@もりのみやキューズモール 2023年度 130,789人

同地区：大阪市立島之内図書館 2023年度 111,733人 出典：大阪市立図書館の統計・令和5年度利用統計

全国の書店総店舗数が減少する一方、独立系書店やシェア型本棚を活用した書店、ひとり出版社など、個人が中心となった新しい本の取り組みは注目を集め、さまざまな本にまつわる活動が生まれ、広がっています。

今回のマイクロ・ライブラリーサミットでは、各地のマイクロ・ライブラリーによる事例発表に加え、本棚オーナー制度をもとにした書店や、地域に密着した独立系書店のオーナーからの発表もあります。さらにまちライブラリー提唱者の磯井純充の近著『「まちライブラリー」の研究―「個」が主役になれる社会的資本づくり』（みすず書房）の出版を期に実施した「まちライブラリーゼミ」の成果発表をします。

そして、まちづくりの専門家、公立図書館元館長やまちライブラリーをはじめとするマイクロ・ライブラリーの運営者を交えて「個人」がはじめた活動が地域に広がり、本がある地域の場づくりにつながってきている事例、個人の書店の活動が広がっている事象の背景に何があるのかを、討論します。

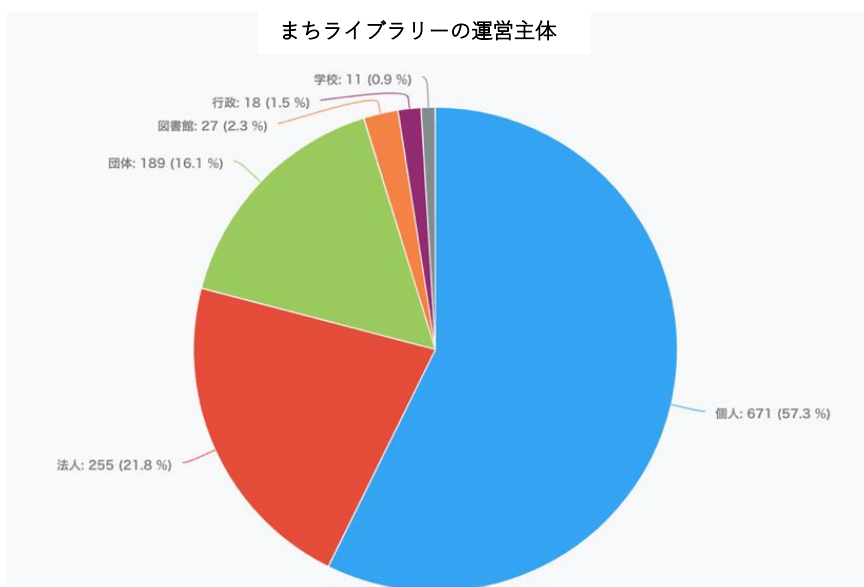
【参考資料】

<書店総店舗数、公共図書館数、まちライブラリー累計数推移> 2013年度～2023年度

	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	増減
書店	15,602	14,658	14,468	14,098	13,576	13,085	12,653	12,343	11,952	11,495	10,918	▲4,684
図書館	3,248	3,246	3,261	3,280	3,292	3,296	3,306	3,310	3,315	3,305	3,310	62
まちL	85	134	257	409	536	659	760	823	904	985	1,096	1,011

出典：出版科学研究所「日本の書店数」、日本図書館協会「日本の図書館統計」、まちライブラリー

※まちライブラリーは一部閉鎖数を含む



出典：まちライブラリー

【マイクロ・ライブラリーサミット実施概要】

マイクロ・ライブラリーサミット

日時：2024年10月20日（日）13時～17時

場所：まちライブラリー@MUFG PARK（東京都西東京市柳沢4-4-40 MUFG PARK内）

プログラム：

（1）マイクロ・ライブラリーによる事例発表 13時～15時10分

リトルフリーライブラリー BOOK POINT（岐阜市）

まちライブラリー@シュール・ムジュール デサキ（大阪市）

UKUBookTourism（長崎県佐世保市）

つながるりんご箱図書館（長野県諏訪郡富士見町）

本と駄菓子と、、、それぞれ（長野県伊那市）

まちライブラリー@おうちサロンひなた（東京都西東京市）

BOOKSHOP TRAVELLER（東京都世田谷区）

高円寺 本の街商店会（東京都杉並区）

（2）まちライブラリーゼミ成果発表 15時10分～15時30分

『「まちライブラリー」の研究―「個」が主役になれる社会的資本づくり』（みすず書房）を基に、著者の磯井純充と意見交換しながら「個」が主役となる社会づくりへの鍵をともに探求・実践していく学びの場を本年4月よりオンラインで実施してきました。その成果を発表します。

（3）寄りあい：「個」が主役になれる「本の公共圏」15時30分～16時45分

マイクロ・ライブラリーや地域の本のある場所が持つチカラや役割など「本の公共圏」について、本の活動にまつわるゲストや参加者とともに考えます。

（4）総括&マイクロ・ライブラリーアワード授与式 16時45分～17時

【マイクロ・ライブラリーとは】

マイクロ・ライブラリーとは、小さな図書館活動をしている個人や団体の活動の総称として2013年に、まちライブラリー提唱者の磯井純充が以下のとおり定義しました。近年の情報化社会における「場」の創生や、「人との連携」における個人の役割に重点をおいた本の活動を指しています。¹

〈マイクロ・ライブラリーの定義〉

（1）個人の私的蔵書を基本の一部、またはその全部を他者に開放し閲覧提供ないし貸出を行なっている。

（2）図書を通じて自己表現し、活動拠点の活性化、参加者の交流を目途として活用されている。

（3）運営主体が、個人または小規模な団体によるものであり、法的な規制や制度にしばられない運営がなされている。

【まちライブラリー ブックフェスタ・ジャパン 2024】

「まちライブラリー ブックフェスタ・ジャパン」は全国のまちライブラリーや公共図書館、書店など本に関わる活動をしているみなさんと協力して、本を通じて人と人、人とまちが出会い、つながるきっかけを作る「本のお祭り」です。2015年に大阪ではじまり、10年続けることができました。全国各地で同時多発的に、本にまつわるミニイベントやトークイベント、拠点同士の相互訪問を実施しています。

<https://bookfesta.machi-library.org/>

【まちライブラリーとは】

まちライブラリーは、いつでも誰でもどこでも始めることができる「本」を通して「人」と出会うまちの図書館です。個人や団体が、自宅や店舗、病院、学校などの一角に本棚を設置して本の貸し借りなどを行う場として全国に広がり、今では図書館や公共施設、商業施設、寺社、サービス付き高齢者住宅などにも広がっています。多様な人たちがそれぞれの想いをもって展開する活動になっています。

2011年に提唱者の磯井純充が大阪で活動を開始し、2024年9月現在で、全国1170か所以上に広がりました。この間の活動をまとめた著書『「まちライブラリー」の研究―「個」が主役になれる社会的資本づくり』（みすず書房）を本年2月に上梓いたしました。こちらをあわせてご参照いただけますと幸いです。

<https://machi-library.org/>

<https://www.msiz.co.jp/book/detail/09648/>

<お問合せ>

まちライブラリー 広報（山本） press.machilibrary@gmail.com

ⁱ 国立国会図書館「カレントアウェアネス」No.319(2014.3) CA1812 新時代におけるマイクロ・ライブラリー考察（磯井純充）